

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業名	公共交通バリアフリー化促進		
所管課	交通計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成14年度		平成12年度の「交通バリアフリー法」の施行を受け、平成14年3月に「福岡市交通バリアフリー基本方針」の策定を行い、この中で特定旅客施設(1日あたりの利用者数5,000人以上)のうち、優先的に整備が必要な鉄道駅(主要交通結節点)やバス車両等の公共交通のバリアフリー化整備について方針を定めたもの。
根拠法令	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律		
行政計画	福岡市バリアフリー基本計画		

基本計画			
施策コード	主	1-1-1	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり		
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進		
施策成果指標	ノンステップバスの導入率 H27n(現状): 22.7%⇒H32n: 70% 鉄道駅のバリアフリー化率 (1日平均利用者3,000人以上) H27n(現状): 98%⇒H32n: 100% UDタクシーの導入台数 H31n 200台		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	公共交通機関(鉄道、バス、タクシー)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	安全且つ円滑な公共交通の利用ができるよう、ノンステップバスの導入や駅のエレベーター設置等に補助を行い、バリアフリー化の促進を図る

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	公共交通施設のバリアフリー化の促進に向け、交通事業者に対し要請を行うとともに、補助金を交付 ・ ノンステップバス導入促進【見込み:71台(うち補助63台)】

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
歳出合計		31,500	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	31,500	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
歳出合計	30,013	89,535	
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	30,013	89,535

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	○交通事業者に対し、バリアフリー化促進の要請 ○交通事業者に対し、バリアフリー化の補助	○公共交通施設のバリアフリー化が進む	○鉄道駅のバリアフリー化100%(H31) (1日平均利用者3,000人以上) ○ノンステップバスの導入 40%(H31) ○UDタクシーの導入 7%(H31)	○全ての公共交通施設がバリアフリー化される
	指標の内容	実績	目標	実績
	活動の指標	年度	年度	年度
鉄道駅のバリアフリー化補助(駅/年度毎)	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	0	0	1	H年度
	0	0	-	-
	-	-	-	-
ノンステップバスの導入補助(台/年度毎)	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	60	63	58	H年度
	60	63	-	-
	100.0%	100.0%	-	-

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標
	年度	年度	年度
	H29年度	H30年度	H31年度
	最終年度		
鉄道駅のバリアフリー化率(1日平均利用者3,000人以上)	100.0	100.0	100.0
	98.0	98.0	-
	98.0%	98.0%	-
ノンステップバスの導入率	70.0	70.0	H年度
	32.4	35.6	-
	46.3%	50.9%	-

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	七隈線沿線のまちづくり推進(橋本駅周辺地区)		
所管課	地域計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
			地下鉄七隈線の整備を契機として、良好な市街地形成や新たな拠点の形成を図るため。
開始年度	平成25年度		
根拠法令	都市計画法・土地区画整理法		
行政計画	なし		

基本計画					
施策コード	主	4-4-1		施策成果指標	なし
	再				
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている				
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり				
事業群	計画的な市街地整備の推進				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	地下鉄七隈線地域(橋本駅周辺)
	対象をどのような状態にしたいのか	橋本駅周辺を中心に総合交通体系の確立及び交通結節機能の強化を図り、市民生活の核となる拠点形成を実現する。
事業目的		

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<p>○地域主体のまちづくり支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(仮称)橋本駅前土地区画整理準備組合への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との協議調整により、雨水幹線整備の時期や予算などの方向性が定まり事業実施に向け進展した。 ・準備組合委員会開催への支援及び出席を行うとともに、地元との計画策定協議調整により、都市計画案の説明会開催及び地権者の同意収集が進み都市計画手続きの着手に至った。 ●(仮称)橋本駅南土地区画整理準備組合への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・事業化に向けた関係機関との協議調整 ・準備組合委員会開催への支援及び出席 <p>[予算額] 195千円(事務費)</p>

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
歳出合計		195	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	195	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
歳出合計	229	185	
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	229	185

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	地域住民が行うまちづくり活動(土地区画整理事業等)について、以下のような誘導支援を行う。 ・事業化に向けた関係機関との協議調整 ・準備組合への技術的支援 (地権者意向を反映した土地利用案作成の支援) (事業計画案作成の支援)	まちづくり活動に対する地域住民の同意が得られ、事業実施の実現が図られる。	・橋本駅を中心に商業・サービス機能及び交流機能が集積し、魅力と賑わいを創出する地域の新しい拠点となるまちが形成される。 ・交通結節機能の強化、駅周辺の整備により、地下鉄利用者が増加するとともに利便性も向上する。	・商業、業務機能の集積や定住人口の増加による地下鉄七隈線の乗車人員増が見込める。 ・定住人口の増加による税収(固定資産税、都市計画税等)が見込める。 ・総合交通体系が確立し、鉄道駅を中心としたコンパクトで良好な市街地が形成される。		
	指標の内容	実績		目標		
	活動の指標	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
		目標	1	1	1	H32年度
実績		0	0	1	1	
達成率		0.0%	0.0%			
	目標			H年度		
	実績					
	達成率					

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標		
	地下鉄七隈線の乗車人員 (1日当たり) H31年度以降は、H31.2策定の地下鉄経営戦略より	年度	H29年度	H30年度	H31年度
		目標	77,745	78,670	95,800
		実績	87,015	92,844	
		達成率	111.9%	118.0%	98,707
	目標			H年度	
	実績				
	達成率				

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	青果市場、箕子小学校、冷泉小学校跡地活用の検討	
所管課	住宅都市局地域まちづくり推進部 跡地計画課（青果市場・箕子小） まちづくり推進室（冷泉小）	背景
開始年度		
根拠法令		
行政計画		
事業を始めた理由(きっかけ)は何か		
敷地規模や立地環境など都市計画的な観点から、総合的な検討が必要となる跡地について、早期跡地活用に向けた検討を推進する必要があったため		

基本計画					
施策コード	主	4-4-1		施策成果指標	なし
	再				
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている				
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり				
事業群	計画的な市街地整備の推進				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	青果市場跡地、箕子小学校跡地、冷泉小学校跡地
	対象をどのような状態にしたいのか	土地を所管する部局と連携し、敷地規模や立地環境を踏まえ、地域や福岡市の魅力向上に資する跡地活用の早期実現を図る
事業目的		

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<p>○青果市場跡地 地域の代表や学識経験者などで構成する「青果市場跡地まちづくり構想委員会」から意見を聞きながら、跡地活用の指針となる「まちづくり構想」(H29.9)を策定。まちづくり構想を踏まえ、公募の考え方を示す、「青果市場跡地活用方針」を策定し、事業者公募開始(H30.1)。事業予定者選定(H30.7)、土地建物売買契約締結(H30.12)。H31.3 引渡し予定</p> <p>○箕子小学校跡地 地域の代表や学識経験者などで構成する「箕子小学校跡地活用会議」を設置し、意見を聞くとともに、民間アイデア募集を実施(H29.6)。提案された民間アイデアや地域の意向等を踏まえ、跡地活用方針を策定(H30.11)。H31.3 事業者公募開始予定</p> <p>○冷泉小学校跡地 跡地の活用検討着手に向けて、地元自治協議会や関係部署と協議及び調整を行い、地域の代表者や学識経験者などで構成する「冷泉小学校跡地活用協議会」を設置した。</p>

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
	歳出合計	14,994	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	14,994	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
	歳出合計	29,755	16,367
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	29,755	16,367

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)				
	土地を所管する部局と連携し、敷地規模や立地環境を踏まえ、地域や福岡市の魅力向上に資する跡地活用を図る。事業者決定後は、提案を踏まえ事業者及び地域や関係機関等との調整を行う。	跡地活用の方向性(跡地活用方針など)をとりまとめ、跡地活用に向けた取り組み(事業者公募など)が定まる。	事業主体により、敷地規模や立地環境を生かし地域の活性化に資する機能の導入や、魅力ある都市空間の創出による、良好な市街地環境形成が図られることで、地域や福岡市の魅力が向上する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を踏まえた跡地活用による地域の活性化 ・新たな機能導入による雇用の場の創出や税収増 ・公有地の運用(売却・賃貸等)による財源の確保 				
	指標の内容	実績	目標	実績	目標			
	活動の指標	跡地活用の方向性(跡地活用方針など)のとりまとめ	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	
			目標	策定(青果市場跡地)	策定(箕子小跡地)	H30年度		(未定)
実績			策定(青果市場跡地)	策定(箕子小跡地)	検討 (冷泉小跡地)		策定 (冷泉小跡地は未定)	
達成率			—	—	—		—	
成果の指標(KPI)	公募による事業者選定、提案を踏まえ事業者及び地域・関係機関等との調整	目標	—	着手(箕子小跡地)	(未定)			
		実績	着手(青果市場跡地)	着手(青果市場跡地)	着手 (箕子小跡地) (冷泉小跡地は未定)		(未定)	
		達成率	—	—	—		—	
		指標の内容	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	
成果の指標(KPI)	活用した跡地の面積(ha)	目標	0	8.8(青果市場跡地)	0.9 (箕子小跡地)		(未定)	
		実績	0	8.8(青果市場跡地)	0.9 (箕子小跡地)		16.5 (冷泉小跡地6.8)	
		達成率	—	100.0%		—		—
		目標	—	—		—		H年度
		実績	—		—			
		達成率	—		—			

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり		
所管課	九大移転調整課 イノベーション推進・Smart EAST 九大跡地整備課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成3年		九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス周辺の地域活力低下を最小限とするともに、九大による円滑な土地処分に向け、計画的かつ速やかな土地利用転換を図り、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入を推進する。
根拠法令	なし		
行政計画	地域拠点、機能を充実・転換する地域(第9次福岡市基本計画)		

基本計画					
施策コード	主	4-4-1		施策成果指標	なし
	再				
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている				
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり				
事業群	計画的な市街地整備の推進				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	九州大学箱崎キャンパス跡地および貝塚駅周辺
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	周辺地域と調和・連携した、良好な市街地の形成および新たな都市機能の導入を図る。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ・九州大学と連携した土地利用転換に向けた検討 ①地元代表や学識者等からなる「跡地利用協議会」において検討したまちづくりルール等に関する「グランドデザイン」の策定 ②先進的なまちづくり「Fukuoka Smart East」の検討 ③公共施設の配置について関係者との協議、検討(公園、箱崎中学校等) ④事業者との意見交換等による土地利用計画などの具体化検討 ⑤公共空間や建築物等のデザインルールの検討 ⑥埋蔵文化財調査や土壌汚染調査・対策に関する調整 ⑦都市再生緊急整備地域指定に向けた準備協議会設置、運営 ・都市基盤の整備に向けた検討 ①直接施行制度を活用した都市計画道路の測量・設計等 ②都市基盤整備関連の検討 <li style="padding-left: 20px;">北エリア: 土地区画整理事業の都市計画決定に向けた検討や測量、調査等 <li style="padding-left: 20px;">南エリア: UR都市機構による開発行為の支援・調整 ③環境影響評価の実施(現地調査等)

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
	歳出合計	208,670	
歳入	特定財源	161,700	
	一般財源	46,970	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
	歳出合計	267,027	648,133
歳入	特定財源	29,604	475,965
	一般財源	237,423	172,168

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)		①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
		<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインに基づき、土地利用計画を具体化するため、土地利用の意向を示している事業者との意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の意向を踏まえることで、より良い提案を引き出す手続き手法やまちづくりルール等が決定でき、多様な事業者が進出しやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインに基づき、段階的な土地利用の転換、都市基盤の整備が行われ、周辺地域と調和・連携した、良好な市街地が形成されるとともに、新たな都市機能が導入される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感が創出されている。 ・周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展している。 ・持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちがつくられている。
活動の指標	指標の内容	実績		目標	
	各種調査において進出意向を示した延事業者数	年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標		100	100	100	H年度
実績		90	95		
達成率		90.0%	95.0%		
目標				H年度	
	実績				
	達成率				
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標	
	土地利用の転換が図られた面積	年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標		0.0	0.0	0.0	H36年度
実績		0.0	0.0		
達成率		-	-		50.0
目標				H年度	
	実績				
	達成率				

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	動物園の整備・運営		
所管課	動物園	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成18年度		平成14年度、新たに動物園を造ろうとした「福岡市自然動物公園構想」の中止を受け、老朽化した現在の動物園を存続していくために再生することになった。
根拠法令	なし		
行政計画	なし		

基本計画				
施策コード	主	4-4-2		施策成果指標
	再	5-1-2		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり			
事業群	公園整備等の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	<input type="checkbox"/> 来園者 <input type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 飼育動物 <input type="checkbox"/> 管理運営者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	<input type="checkbox"/> 年間入園者数100万人、魅力ある動物展示の工夫(息づかい、行動の特性等)、利便性の向上(ユニバーサルデザインの導入等) <input type="checkbox"/> 周辺道路の渋滞対策及び公共交通利用促進 <input type="checkbox"/> 飼育動物の福祉(エンリッチメント)向上 <input type="checkbox"/> 入園者増加による収益向上

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	① エントランス複合施設(動物情報館、レストラン、売店、地下駐車場)の完成(H30年10月オープン)
	② 繁忙期日祝のシャトルバス運行継続と公共交通利用促進キャンペーンの実施
	③ 閑散期(夏・冬)の集客企画とパブリシティ効果を狙った情報発信を実施

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計		1,348,398
歳入	特定財源	941,286
	一般財源	407,112
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29 H31
歳出合計	785,503	1,385,468
歳入	特定財源	556,755 883,487
	一般財源	228,748 501,981

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																														
	<input type="checkbox"/> 「福岡市動植物園再生基本計画」における確かつ計画的な設計および工事発注の進行管理。 <input type="checkbox"/> 戦略的な情報発信 <input type="checkbox"/> 公共交通利用促進 <input type="checkbox"/> 自主財源の確保	<input type="checkbox"/> 整備スケジュールに基づく計画的な施設完成と福岡独自の魅力的な施設整備 <input type="checkbox"/> メディアや市民の関心度向上 <input type="checkbox"/> 周辺道路の渋滞緩和や環境負荷低減、満足度向上 <input type="checkbox"/> 入園者増加による収益向上	<input type="checkbox"/> 魅力的な施設の整備や関心・満足度向上 <input type="checkbox"/> 動物福祉に配慮した動物展示 <input type="checkbox"/> 地域住民との良好な関係 <input type="checkbox"/> 計画的な管理運営	<input type="checkbox"/> 人と地球にやさしい都市の構築 <input type="checkbox"/> 安定した入園者増加による → 収益の増加 → 観光政策推進に貢献																																														
	活動の指標	指標の内容	指標の内容	指標の内容																																														
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">43.3</td> <td style="text-align: center;">44.6</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">59.5</td> <td style="text-align: center;">H37年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">44.6</td> <td style="text-align: center;">51.5</td> <td style="text-align: center;">90.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">103.0%</td> <td style="text-align: center;">115.5%</td> <td></td> </tr> </table>	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	目標	43.3	44.6	59.5	H37年度	実績	44.6	51.5	90.0	達成率	103.0%	115.5%		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">900,000</td> <td style="text-align: center;">900,000</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">900,000</td> <td style="text-align: center;">H37年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">804,435</td> <td style="text-align: center;">826,215</td> <td style="text-align: center;">1,000,000</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">89.4%</td> <td style="text-align: center;">91.8%</td> <td></td> </tr> </table>	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	目標	900,000	900,000	900,000	H37年度	実績	804,435	826,215	1,000,000	達成率	89.4%	91.8%				
	年度	実績		目標																																														
H29年度		H30年度	H31年度	最終年度																																														
目標	43.3	44.6	59.5	H37年度																																														
実績	44.6	51.5		90.0																																														
達成率	103.0%	115.5%																																																
年度	実績		目標																																															
	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度																																														
目標	900,000	900,000	900,000	H37年度																																														
実績	804,435	826,215		1,000,000																																														
達成率	89.4%	91.8%																																																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">H 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	目標				H 年度	実績					達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">H 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	目標				H 年度	実績					達成率				
年度	実績		目標																																															
	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度																																														
目標				H 年度																																														
実績																																																		
達成率																																																		
年度	実績		目標																																															
	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度																																														
目標				H 年度																																														
実績																																																		
達成率																																																		

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業名	交通マネジメントの推進		事業区分	重点	
所管課	交通計画課	背景	基本計画		
開始年度	平成24年度		施策コード	主	4-5-1
根拠法令	なし			再	
行政計画	福岡市都市交通基本計画		分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
		施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
		事業群	公共交通ネットワークの充実		
			施策成果指標	○1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → H34:120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → H34:現状維持)	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	公共交通機関(鉄道・バス)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	異なる公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携し、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークとなり、多くの市民・来訪者に利用されている状態

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	「福岡市交通基本計画」で掲げた基本的な方針のうち、「公共交通を主軸とした総合交通体系づくりの推進(方針1)」を踏まえ、その実施計画である「福岡市総合交通戦略」に位置付けた各種施策について検討・実施した。 ・鉄道駅へのバス停近接化に向けた取組みや公共交通相互の乗継利便性向上の実施等 ・転入者や小学校低学年に対する公共交通情報提供のモビリティマネジメント(MM) ・大型商業施設駐車場を活用したパークアンドライド(P&R)の実施等 ・交通事業者連携による外国人旅行者を対象とした公共交通共通乗車券(FTCP)の実施等

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計		8,455
歳入	特定財源	0
	一般財源	8,455
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H29	H31
歳出合計	7,713	7,228
歳入	特定財源	0
	一般財源	7,713

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	利用者にとって使いやすい公共交通が主軸となった総合交通体系の構築に向けたロードマップを、交通事業者や道路管理者等の関係者との共働により策定する。	①のロードマップに基づいて、関係者(交通事業者、市、道路管理者等)の連携により、PDCAサイクルで取組みが進められる。	②のプランを実行し、色々な公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携した、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークが形成される。	マイカーに過度に依存しなくてもよい、公共交通を中心とした交通体系が構築された社会となっている。	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	活動の指標	年度	H29年度	H30年度	H31年度
実施施策数	目標	21	26	26	H34年度
	実績	20	21		26
	達成率	95.2%	80.8%		26
	目標				H 年度
	実績				
	達成率				

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標			
	1日あたりの鉄道・バス利用人員	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
		目標	115万人	116万人	117万人	H34年度
		実績	128.8万人	集計中		120万人
達成率		112.0%	-	120万人		
目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	H34年度			
公共交通が便利と感じる市民の割合	実績	80.4%	79.5%	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	
	達成率	100.0%	100.0%		現状維持(80%程度)	
	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)		現状維持(80%程度)	
	実績	80.4%	79.5%		現状維持(80%程度)	
	達成率	100.0%	100.0%	現状維持(80%程度)		

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業名	東部地域における鉄道計画調査		
所管課	交通計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成17年度		・都市交通審議会答申[昭和46年]
根拠法令	なし		都心部から箱崎方面に至る路線(現地下鉄2号線)を新設し、西鉄宮地岳線(現貝塚線)との直通運転について検討が必要
行政計画	福岡市都市交通基本計画		

基本計画			
施策コード	主	4-5-1	
	再		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	公共交通ネットワークの充実		

実施成果指標	○1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → H34:120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → H34:現状維持)
--------	--

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	地下鉄2号線、西鉄貝塚線利用者及び沿線居住者等
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	貝塚駅における乗継ぎが解消され、福岡市東部地域と都心部間の交通利便性の向上が図られる。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ・直通運転化に向けては、事業の収支採算性や費用対効果(B/C)の改善が課題となっており、国庫補助採択のためには、初期投資費用の圧縮とともに、利便性の確保を図ることが必要である。 ・これまでの事業スキームを見直し、既存の施設をできる限り活用して初期投資費を抑えつつ、現状どおり地下鉄箱崎線から空港線(姪浜方面)への直通列車が維持される事業スキーム案(貝塚駅での列車の増解結)について検討中。 ・H30年度は、費用対効果(B/C)の評価に必要な初期投資費(C)を試算し、交通対策特別委員会にて報告した。

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計		3,737
歳入	特定財源	0
	一般財源	3,737
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H29	H31
歳出合計	4,752	5,000
歳入	特定財源	0
	一般財源	4,752

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 実現可能性が見込まれる運営スキームの構築にむけて、鉄道事業者と協議・調整を行う。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ・地下鉄2号線と西鉄貝塚線が直通運転化され、利用者の乗継ぎが解消される。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 貝塚駅における乗継ぎが解消され、福岡市東部地域と都心部間の交通利便性の向上が図られる。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ・沿線の新しいまちづくりや商業業務機能集積により福岡型のコンパクトな都市が形成される。 ・交通混雑の緩和や環境負荷の低減など環境に優しい都市が構築される。							
	→	→	→								
	→	→	→								
	→	→	→								
活動の指標	指標の内容	実績				目標					
		年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	交通対策特別委員会への報告回数	目標	1	1		H34年度	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)		H34年度
		実績	1	1	1		実績	80.4%	79.5%	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)
		達成率	100.0%	100.0%			達成率	100.0%	100.0%		
		目標				H年度	目標				H年度
		実績					実績				
		達成率					達成率				

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	都心拠点間の交通ネットワーク強化の検討		
所管課	都心交通課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成23年度		市が主要事業の一つとしてMICE誘致の推進に取り組む中で、新たな展示場の検討が行われるなどウォーターフロントエリアの重要性が高まっており、都心部(天神・渡辺通、博多駅、ウォーターフロント)の拠点間の回遊性を高め、来訪者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化に取り組む必要があった。
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市都市交通基本計画、福岡市総合交通戦略		

基本計画					
施策コード	主	4-5-1			施策成果指標
	再	5-4-1	8-1-2		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている				
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築				
事業群	公共交通ネットワークの充実				

施策4-5成果指標
 ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員
 現状値(2010年)108万4千人
 目標値(2022年)120万人
 ・公共交通の便利さへの評価
 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合)
 現状値(2012年)77.4%
 目標値(2022年)現状維持(80%程度を維持)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	都心3拠点(天神・博多駅・ウォーターフロント地区)を回遊する市民や来街者
	対象をどのような状態にしたいのか	国際競争力を備えた九州・アジアをつなぐ交流拠点として、本市の成長を牽引する天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区、アジアとの玄関口であるウォーターフロント地区間の回遊性を高め、市民や来街者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化を図るもの。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	○都心循環BRTの形成に向けた連節バスによる試行運行の実施 ・市民や来街者の声等を踏まえ、H29.6からこれまでの約100分～110分間隔、1日12便の運行から約20分～30分間隔、1日62便の運行に移行。 ○専用走行空間のあり方については、都心部における路線バス全体の円滑な運行や、一般車両の安全と円滑化を図るため、交通管理者によるバスレーンの規制変更を実施するとともに、バスレーンの認識度を高める路面明示化を実施。
-----------------	---------------------------------------	---

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
	歳出合計		
歳入	特定財源		
	一般財源	0	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
	歳出合計	19,813	5,978
歳入	特定財源	6	5
	一般財源	19,807	5,973

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	○交通アクセス強化における段階的な整備スケジュール(プロセス)の確定 ○関係者と協議・調整 ○適宜情報発信(市民などへのわかりやすい情報提供)	○交通アクセス強化の段階的なプロセスが示され ○本事業の目的、プロセスを理解し、合意形成が図られている。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来訪者にとってわかりやすく利用しやすいものとなる。 ○都心部の案内誘導が充実し、市民や来訪者にとってわかりやすいものとなる。 ○本事業の目的、プロセスを市民が理解している。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来街者に定着する。 ○都心部の回遊性が向上する。 ○都心部における公共交通の利用者が増え、自動車利用者が減ることにより、「道路交通混雑の緩和」や「都心拠点間の交通ネットワークの強化」が図られる。
	指標の内容	実績	実績	実績
	年度	H29年度	H30年度	H31年度
	目標			最終年度

活動の指標		H年度				
	目標					H34年度
	実績					現状維持(80%程度)
	達成率					現状維持(80%程度)

成果の指標(KPI)		H年度				
	目標					H34年度
	実績					現状維持(80%程度)
	達成率					現状維持(80%程度)

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	都心部における交通マネジメント施策の推進		
所管課	都心交通課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 都心部、特に天神地区の交通混雑悪化を契機として、交通需要の調整や交通容量の回復を図るため、「福岡市交通マネジメント施策推進協議会」において打ち出された交通施策の方向性に基づき、交通マネジメント施策を展開する必要があった。
開始年度	不明		
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市都市交通基本計画、福岡市総合交通戦略		

基本計画			
施策コード	主	4-5-2	
	再	8-1-2	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	交通マネジメントの推進(公共交通機関や自転車利用の促進等)		
施策成果指標	施策4-5成果指標 ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員 現状値(2010年)108万4千人 目標値(2022年)120万人 ・公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合) 現状値(2012年)77.4% 目標値(2022年)現状維持(80%程度を維持)		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	都市機能の集積や自動車交通の集中により交通混雑が慢性化している福岡都心部
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	都心部における交通混雑の緩和や交通結節機能の強化を図り、円滑な都市活動を支える快適な交通環境を創造するもの。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	・フリンジパーキング確保に向けた検討
	・天神地区の交通課題解決に向けた、天神交通戦略に基づくWeLove天神協議会(WLT)との共働による短中期施策の検討及び実施
	・博多駅筑紫口駅前広場再整備に向けたレイアウト案の検討

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計		0
歳入	特定財源	0
	一般財源	0
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29
	H31	
歳出合計	342	14,000
歳入	特定財源	0
	一般財源	5,400
	342	8,600

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	○公共交通利用啓発活動の実施 ○フリンジパーキングの確保に向けた検討 ○交通結節機能の強化	○これまでの移動手段からの変容が生じる(市民の公共交通利用が増加する、市民が自動車を賢く利用するようになる) ○フリンジパーキングが確保される ○交通結節点において快適な空間が創出される	○公共交通分担率が上がる ○自動車分担率が下がる ○都心中心部への自動車流入が抑制される ○交通結節点における乗継抵抗が低減される	○都心部の交通環境が快適となる(交通混雑緩和、交通円滑化、交通結節機能強化) ○都心部が、人を中心として安全・快適に歩ける交通体系となる	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	目標				H年度
実績					
達成率					
目標				H年度	
実績					
達成率					

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標		
	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	目標	115.0	116.0	117.0	H34年度
	実績	128.8	未確定	120.0	
	達成率	112.0%	-	-	
目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	H34年度	
実績	80.4	79.5	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)	
達成率	100.0%	100.0%	-		

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分		重点
事業名	生活交通支援	
所管課	交通計画課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成14年度の道路運送法の改正に伴い、バス路線の廃止が許可制から事前届出制となったことから、本市内を運行する路線バスにおいても、不採算路線の休廃止の届け出がなされ、公共交通が空白地となる地域において、生活交通(代替交通)の確保が必要となるため、財政負担による支援を行うもの。
開始年度	平成18年度	
根拠法令	公共交通空白地等及び移動制約者に係る生活交通の確保に関する条例	
行政計画	福岡市都市交通基本計画	

基本計画			
施策コード	主	4-5-4	施策成果指標 ○1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → H34:120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → H34:現状維持)
	再		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	生活交通の確保		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	公共交通空白地、公共交通不便地等の居住者
	対象をどのような状態にしたいのか	生活交通は、通勤、通学、通院、買い物その他の日常生活に欠かすことのできない、市民の諸活動の基盤であり、その移動手段について、必要最低限の生活交通の確保を行う。
事業目的		

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	・休廃止対策 路線バスの休廃止に伴い、公共交通空白地となる地域において、代替交通の運行経費に補助を行っている。【5路線:今宿姪浜線、板屋脇山線、志賀島島内線、脇山支線、金武橋本線】 ・不便地対策 公共交通の利用が不便な地域やそれに準ずる地域において、地域主体の取組みに対する検討経費や交通事業者が実施する試行運行の経費に補助を行っているが、関係者の合意が得られず予算執行には至らなかった。 ・生活交通確保支援 休廃止対策や不便地対策の対象以外の地域において、生活交通確保に向けた地域主体の取組みに対して、専門的なアドバイスなどの活動支援を行っている。

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
	歳出合計	54,216
歳入	特定財源	1,942
	一般財源	52,274
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29 H31
	歳出合計	52,832 62,306
歳入	特定財源	1,892 1,942
	一般財源	50,940 60,364

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	○公共交通が空白地となる地域における代替交通の確保・支援 ○地域主体による生活交通確保の取組みに対する支援	○休廃止対策路線の維持 ○地域実情に応じた公共交通サービスの確保	○必要最低限の生活交通が確保されている。	○地域の実情に応じた生活交通が確保され、公共交通が便利と感じる市民の割合が増えている。	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	活動の指標	年度	H29年度 H30年度 H31年度 最終年度	年度	H29年度 H30年度 H31年度 最終年度
バス連絡協議会の開催回数(回/年度毎)	目標	5 5	H年度	目標	163 169
【5路線(1回/路線)】	実績	9 9	5	実績	153 170
	達成率	180.0% 180.0%	-	達成率	93.9% 100.6%
公共交通不便地における地域の取組に対する支援(地区/年度毎)	目標	2 2	H年度	目標	3 3
	実績	2 2	2	実績	3 3
	達成率	100.0% 100.0%	-	達成率	100.0% 100.0%

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	みどり活用推進事業		
所管課	みどり推進課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成25年度		これからの公園や街路樹などの整備・管理運営については、限られた財源の中で、社会状況の変化や市民の多様なニーズに的確に対応する必要がある。そこで、これまでの「創る・守る」視点だけでなく、「活かす・育てる」視点を加えみどり行政を進める。
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市 新・緑の基本計画		

基本計画				
施策コード	主	4-6-1		施策成果指標 ○身近な緑への満足度(身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合) (H24:31.6%, H28:40%, H32:50%)
	再	4-4-2		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上			
事業群	公共空間の利活用の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	みどり資産
	対象をどのような状態にしたいのか	みどり経営基本方針の理念が浸透し、職員のみどり資産活用に対するマインドの向上や体制の整備、市民・地域・企業によるみどり整備・運営への参画の充実、みどり資産整備・運営経費の収支改善等が実施されている状態。
事業目的		

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	①公園駐車場の有料化 アイランドシティ中央公園の駐車場有料化、大井中央公園の駐車場有料化についての検討 ②官民連携事業 高宮南緑地(旧高宮貝島家住宅)整備・管理運営事業について事業者決定および事業者協議の実施 動物園について新エントランス施設のオープン ③コミュニティパーク事業の推進

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計		14,800
歳入	特定財源	6,000
	一般財源	8,800
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29
	H31	
歳出合計	28,805	34,590
歳入	特定財源	21,000
	一般財源	7,805
	13,590	

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																														
	・みどり経営基本方針を基に市民との共働や収支の改善、資産の有効活用を進め、みどり資産の価値の向上を図る。当面、下記の事業を進める。 ・市民との共働:コミュニティパーク事業の推進、(市民、企業との共働による花のまちづくりの推進) ・収支の改善:駐車場の有料化、使用料や占用料の見直し、街路樹再整備方針の策定 ・資産の有効活用:特別緑地保全地区における保全、活用の推進、官民連携事業(PPP)の推進	・みどりの維持管理へ市民参加が促進される ・公園ににぎわいが生まれる ・管理コストが削減される ・資産有効活用による歳入増又は歳出減	みどり資産の価値が高まる。 ①地域住民の生活に根ざした身近な公園→地域自ら活かし育て、憩いやコミュニティ活動、健康づくり、学びの場となっている ②広域から多くの利用者が集う公園一貫の高いサービスとともに活かされ、都市の賑わいや活力の創出につながっている ③都市の骨格と個性ある都市景観を形成する緑→まちを彩り、風格ある街並みを形成する緑として育て、愛されている ④地域住民に親しまれる身近な森の緑→地域の貴重な緑として自ら守り育て、共存し、愛されている	「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創出																																																																														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">指標の内容</th> <th rowspan="2" style="width: 5%;">年度</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">実績</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">駐車場有料化実施公園数(箇所)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">H32年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">110.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">民間活力導入事例数(箇所)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">H32年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">150.0%</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	駐車場有料化実施公園数(箇所)	目標	10	12	13	H32年度	実績	11	12	16	達成率	110.0%	100.0%	16	民間活力導入事例数(箇所)	目標	2	2	3	H32年度	実績	2	3	4	達成率	100.0%	150.0%	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">指標の内容</th> <th rowspan="2" style="width: 5%;">年度</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">実績</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">43.1</td> <td style="text-align: center;">45.4</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">47.7</td> <td style="text-align: center;">H32年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">29.8</td> <td style="text-align: center;">29.9</td> <td style="text-align: center;">50.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">69.1%</td> <td style="text-align: center;">65.9%</td> <td style="text-align: center;">50.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">H 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】	目標	43.1	45.4	47.7	H32年度	実績	29.8	29.9	50.0	達成率	69.1%	65.9%	50.0		目標				H 年度		実績						達成率				
	指標の内容			年度	実績		目標																																																																											
H29年度		H30年度	H31年度		最終年度																																																																													
駐車場有料化実施公園数(箇所)	目標	10	12	13	H32年度																																																																													
	実績	11	12		16																																																																													
	達成率	110.0%	100.0%		16																																																																													
民間活力導入事例数(箇所)	目標	2	2	3	H32年度																																																																													
	実績	2	3		4																																																																													
	達成率	100.0%	150.0%		4																																																																													
指標の内容	年度	実績		目標																																																																														
		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度																																																																													
身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】	目標	43.1	45.4	47.7	H32年度																																																																													
	実績	29.8	29.9		50.0																																																																													
	達成率	69.1%	65.9%		50.0																																																																													
	目標				H 年度																																																																													
	実績																																																																																	
	達成率																																																																																	

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	セントラルパーク構想推進事業		
所管課	みどり政策課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成25年度		・舞鶴城址将来構想策定時から20年以上経過し、社会情勢が変化
根拠法令	なし		・史跡の発掘調査及び史跡内施設の移転が進展
行政計画	福岡市 新・緑の基本計画		・第9次福岡市基本計画での位置づけ ・構想策定に共同で取り組むことへの県の合意

基本計画			
施策コード	主	5-2-1	
	再	8-1-1	
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり		
事業群	市民の憩いと集客の拠点づくり(大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等)		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	①県民・市民 ②国内外からの観光客
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	①大濠公園・舞鶴公園が一体となって、日常的な憩いの場として利用されている状態 ②両公園が本市の貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となり、福岡の一泊の目的地となっている状態

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ・セントラルパーク基本計画の策定に向けた検討を行った。 ・福岡城さくらまつりや指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベントの受入れ等により、季節を通じた賑わいを創出した。 ・イベントガイドの作成し、各所で配布し情報発信を強化した。 ・大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的とした大濠・舞鶴公園連絡会議を開催した。 ・指定管理者の自主事業の充実等により、市民・企業との共働を促進した。 ・大濠公園と舞鶴公園共通のサインマニュアルに基づき、案内サインの設置やベンチの更新、一部トイレの洋式化等による回遊性・快適性の向上に取り組んだ。 ・防災公園街区整備事業(高裁跡地)の事業着手を行った。 ・城内住宅の移転(6区画)を進めた。

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計	967,529	
歳入	特定財源	795,982
	一般財源	171,547
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29 H31
歳出合計	322,105	777,866
歳入	特定財源	168,897 667,336
	一般財源	153,208 110,530

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・県市共同でセントラルパーク基本計画を策定する。 ・既存イベントの充実や多様なイベントを受入れるとともに、イベントしやすい環境づくりを行う。 ・県市で組織を設置し、管理運営の連携を図る。 ・市民・企業等の参加の機会を増やす。 ・史跡の発掘調査や復元整備、一体的な公園整備を進める。 ・非史跡施設の移転を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両公園の今後の整備方針が決定する。 ・大濠公園や周辺も含めたエリアで、官民一体となり、福岡城さくらまつり等が実施されている。 ・年間を通して多様なイベントが実施され、賑わいが創出される。 ・両公園で一体的な管理運営が行われている。 ・市民・企業等との共働した取組みが増加する。 ・両公園の見所が増え、回遊性も向上する。 ・非史跡施設が城内からなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・憩いの場としての魅力や利便性が向上し、公園利用者や公園運営に参加する県民・市民が増加する。 ・九州・西日本の魅力的な観光スポットとして、国内のみならず、海外からの観光客も増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な空間となることで、周辺居住者が増加するとともに、観光客の増加で経済活動が活発化する。 ・海外からの観光客増加で、アジアの交流拠点都市として国際競争力が向上する。 			
	指標の内容	実績		目標			
	活動の指標	セントラルパーク基本計画の策定	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
			目標	100.0	100.0	100%	H31年度
実績		70.0	80.0	100%	H34年度		
達成率		70.0%	80.0%	100%	60.0%		
イベントの年間開催日数	目標	65	70	75日	32年度	H 年度	
	実績	154	-		80日		
	達成率	236.9%	-				

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	快適で高質な都心回遊空間の創出事業		
所管課	都心創生部	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
	都心創生課		
開始年度	平成25年度	背景	都心部の更なる機能強化と魅力づくりを図るため、核となる天神・渡辺通、博多駅、ウオーターフロントの3地区の都市機能を高めるとともに、各地区が相互に連携し、都心部全体の活力が向上するよう、回遊性強化に取り組むもの。 ※第9次福岡市基本計画(H24.12策定)「施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり」
根拠法令	なし		
行政計画	なし		

基本計画					
施策コード	主	5-3-2		施策成果指標	なし
	再	8-1-1			
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり				
事業群	交通利便性や都心回遊性の向上				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	都心部において働く人、住む人、訪れる人など
	対象をどのような状態にしたいのか	・歩いて楽しく、魅力ある回遊空間の形成により、働くひと、住む人、訪れる人の心に残る美しいまちとなり、都心部の歩行者が増加する。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	<p>○都心回遊に関する庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて、事業全体の最適化を図っている。 (事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案)</p> <p>○天神ビッグバンの中座敷(西中洲)～情緒ある路地空間の創出～西中洲地区の魅力づくりに向けた景観誘導 →10月「西中洲地区景観誘導街づくり計画」を登録</p> <p>○都心部における街路樹などの再整備 博多～天神を繋ぐ通りの魅力づくり(はかた駅前通りの再整備 等)</p>
-----------------	---------------------------------------	---

事業費(千円)			
平成30年度決算額(見込額)			
	歳出合計		98
歳入	特定財源		0
	一般財源		98
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H29	H31
	歳出合計	118	950
歳入	特定財源	0	
	一般財源	118	950

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	道路、河川、公園などの回遊空間のコンセプトやデザイン、回遊スポットとなるにぎわい空間の創出について、関係局連携のもと検討・共有・整備を推進する。	都心部回遊空間の形成とあわせて、エリアマネジメント組織等による回遊空間等での活動が活発になることで都心部に賑わいと活力を与える。	都心部の回遊空間を歩行する市民や来街者等が増加する。	都心部を回遊する市民や来街者の増加により、飲食、買い物、宿泊など様々な経済波及効果をもたらされ、市全体の活力が向上する。		
	指標の内容	実績	目標	実績	目標	
	活動の指標	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
		エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	50	50	50
	実績	83	75	50	50	11.3
	達成率	166.0%	150.0%			
	エリアマネジメント組織等による公開空地等でのイベント開催件数	目標	20	20	20	H年度
	実績	28	-	20	20	
	達成率	140.0%	-			

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標			
	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(単位:万人)	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
		目標	-	-	-	H34年度
	実績	-	-	-	-	11.3
	達成率	-	-	-	-	-
目標	-	-	-	-	H年度	
実績	-	-	-	-	-	
達成率	-	-	-	-	-	

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	ウォーターフロント再整備の推進			
所管課	住宅都市局 都心創生部	事業を始めた理由(きっかけ)は何か		
	WF再整備推進課・WF再整備計画課			
開始年度	平成25年度	背景	・クルーズ船の寄航回数の急増やコンベンション施設の多い稼働率に対する都市機能の供給力不足が顕在化した。 ・第9次福岡市基本計画に、WF地区の都市機能を高めることが位置づけられた。	
根拠法令	なし			
行政計画	第9次福岡市基本計画			

基本計画					
施策コード	主	8-1-1			施策成果指標
	再	5-4-1	8-4-2		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている				
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化				
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり				

都心部の従業者数 (H34年度目標値: 40万人)

都心部の1日あたりの歩行者交通量 (H34年度目標値: 113千人)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	・市民 ・国内外からの来街者 (MICE施設利用者、クルーズ船利用客等)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	・東アジア有数のグローバル交流拠点として、世界中の人々の出会いと交流が生まれ、都市の成長に大きく貢献している。 ・都心の貴重な海辺空間で、市民や来街者が日常的に憩い、楽しんでいる。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	・平成30年9月に、中央ふ頭西側岸壁延伸部の供用が開始され、世界最大級のクルーズ船の寄港等が可能となった。[国交省、港湾空港局] ・平成30年12月に、第2期展示場及び立体駐車場の事業契約を締結し、事業着手した。[経済観光文化局] ・平成30年12月に、新たに事業化を進める公共施設の整備概要や民間施設の誘導概要、交通対策等を「事業概要」としてとりまとめ、議会へ報告した。 ・平成31年2月に、事業者公募の前提となる事業化の考え方や基本スキーム素案をとりまとめ議会へ報告した。また、これに対する民間サウンディングを開始した。 ・市民等への周知を図るため、市政だより(特集)への記事掲載(1/1号, 3/1号)や、出前講座、地元説明等を行った。

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
	歳出合計	70,000
歳入	特定財源	
	一般財源	70,000
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29 H31
	歳出合計	74,049 60,561
歳入	特定財源	
	一般財源	74,049 60,561

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)		①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
		・再整備の対象内容を決定し、対外的に明示する。 ・民間活力を活用した最適な事業スキームを構築し、事業者公募を実施する。 ・市民や事業者への広報や情報発信を行う。	・民間事業者の活力やノウハウが活かされ、再整備に関する市の要求水準が、効果的・効率的に達成される。 ・事業に対する市民の理解が深まるとともに、民間事業者の事業参画意欲が高まる。	・MICE・クルーズの機能強化が図られ、供給力が向上する。 ・市民や来街者が海辺で憩い、楽しめる環境が整備される。	・福岡・九州・西日本の成長をけん引する新たな都心拠点が形成される。 ・東アジア有数のグローバル交流拠点と認知される。	
活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
経済波及効果	広報・情報発信活動の実施件数(シンポジウムや出前講座、現場視察等)	目標	10件	10件	10件	H31年度
		実績	21件	14件	10件	10件
		達成率	210.0%	140.0%		
		目標	-	-	3回	H31年度
(KPI)	官民対話の実施回数	実績	-	-	3回	H年度
		達成率	-	-	3回	
		目標				
		実績				
		達成率				

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	都心部のまちづくりの推進			
所管課	都心創生部	事業を始めた理由(きっかけ)は何か		
	都心創生課			
開始年度	平成20年度	背景	福岡市においても将来的には人口や税収の減少が見込まれる中、これまで以上に都市の機能強化と魅力づくりを図ることが必要。そのためには都市の成長を牽引する都心部において、計画的な機能更新により、あらゆる人の活動を支えるための都市機能に磨きをかける必要がある。	
根拠法令	なし			
行政計画	なし			

基本計画				
施策コード	主	8-1-1		施策成果指標
	再	7-4-1		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化			
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	都心部において働く人、住む人、訪れる人など
	対象をどのような状態にしたいのか	都心部のまちづくりを通じて、人と経済活動を呼び込み、様々な投資やサービスの提供がなされ、そこに様々な雇用が生まれることで、生活の質が更に高まっていく。
事業目的		

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	○市独自の容積率緩和制度(都心部機能更新誘導方策, 天神ビッグバンボーナス)の活用によりビルの建替え等を促し、都心部の機能強化と魅力づくりを推進 →平成30年9月, 「(仮称)九勤博多駅前一丁目ビル計画」が着工 →平成30年9月, 旧大名小学校跡地活用事業の事業契約を締結 →平成31年1月, 天神ビッグバンボーナス第1号の認定を受けた「(仮称)天神ビジネスセンター」が着工 →平成31年3月, 「天神二丁目南ブロック地区整備計画」が都市計画決定 →天神明治通り地区地下通路整備への支援

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
	歳出合計	13,584
歳入	特定財源	
	一般財源	13,584
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29 H31
	歳出合計	68,957 303,008
歳入	特定財源	21,171 140,005
	一般財源	47,786 163,003

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)		
	機能更新誘導方策を始めとする様々なまちづくりの制度について周知する。(ホームページやリーフレット等の作成・更新・配布など)	周知の対象である事業者において、更新期を迎えたビルの建替え検討がなされる一環として、まちづくり検討の場ができ、当課との協議の機会が増える。	老朽化したビルが耐震性の高い先進的な業務・商業ビルへと更新されることで、新たな企業が進出する受け皿が整うとともに、九州・アジア、環境、安全安心、魅力、共働といった視点でのまちづくりが推進される。	企業の進出が促進されることで、商機拡大、雇用創出などにつながるのみならず、まちの賑わいや魅力が向上し、来街者が増加する。		
	活動の指標	実績	目標	実績	目標	
	指標の内容	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	制度PRのためのパンフレット配布や出前講座開催の件数	目標	8	8	8	H 年度
	実績	21	30	-	-	
	達成率	262.5%	375.0%	-	40.0	
エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	50	50	50	H 年度	
	実績	83	75	-	-	
	達成率	166.0%	150.0%	-	11.3	

成果の指標(KPI)	指標の内容	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	都心部の従業者数 (単位: 万人)	目標	-	-	-	H34年度
		実績	-	-	-	-
		達成率	-	-	-	40.0
	都心部の1日あたりの歩行者交通量 (天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(単位: 万人)	目標	-	-	-	H34年度
実績		-	-	-	-	
達成率		-	-	-	11.3	

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	香椎・臨海東地区住宅市街地総合整備事業		
所管課	まちづくり推進室	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か アイランドシティを含む香椎・臨海東地区において、良好な住宅市街地形成を促進するため。
開始年度	2003(平成15)年度		
根拠法令	なし		
行政計画	第9次福岡市基本計画		

基本計画					
施策コード	主	8-2-1		施策成果指標	住んでいる住宅及び住環境に対する満足度 現状値: 75.2%(2008) 2013年: 現状維持(80%程度を維持) 2022年: 現状維持(80%程度を維持)
	再	3-3-1			
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている				
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり				
事業群	先進的モデル都市アイランドシティのまちづくり				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	アイランドシティ(まちづくりエリア)
	対象をどのような状態にしたいのか	良質な共同住宅供給を促進することで、快適な居住環境の創出を図り、美しい住宅市街地景観が形成された、先進的モデル都市を目指す。
事業目的		

実施内容(手段)	平成30年度, 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	共同施設整備等補助
		・継続事業4件[分譲2件498戸・賃貸2件350戸]
		・新規事業4件[分譲4件1456戸]

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計	1,244,070	
歳入	特定財源	621,396
	一般財源	622,674
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29 H31
歳出合計	580,610	1,177,592
歳入	特定財源	289,844 588,131
	一般財源	290,766 589,461

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)																																																																																					
	民間事業者が行う共同住宅整備に係る費用の一部に対して補助金を交付する。	良質な共同住宅供給の促進	快適な居住環境が創出され、美しい市街地景観が形成される。	住環境に対する満足度の向上																																																																																					
	▶	▶	▶	▶																																																																																					
	活動の指標	成果の指標(KPI)	活動の指標	成果の指標(KPI)																																																																																					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">共同住宅の供給戸数(累計)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">2,853</td> <td style="text-align: center;">3,136</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">3,701</td> <td style="text-align: center;">H36年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">2,853</td> <td style="text-align: center;">3,136</td> <td style="text-align: center;">6,278</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">H年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	共同住宅の供給戸数(累計)	目標	2,853	3,136	3,701	H36年度	実績	2,853	3,136	6,278	達成率	100.0%	100.0%			目標				H年度		実績						達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">H年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">H年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度		目標				H年度		実績						達成率						目標				H年度		実績						達成率			
指標の内容	年度			実績		目標																																																																																			
		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度																																																																																				
共同住宅の供給戸数(累計)	目標	2,853	3,136	3,701	H36年度																																																																																				
	実績	2,853	3,136		6,278																																																																																				
	達成率	100.0%	100.0%																																																																																						
	目標				H年度																																																																																				
	実績																																																																																								
	達成率																																																																																								
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																					
		H29年度	H30年度	H31年度	最終年度																																																																																				
	目標				H年度																																																																																				
	実績																																																																																								
	達成率																																																																																								
	目標				H年度																																																																																				
	実績																																																																																								
	達成率																																																																																								

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	九州大学学術研究都市構想の推進		
所管課	九大移転調整課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成13年度		九州大学の福岡市西区の元岡・桑原地区及び
根拠法令	なし		糸島市への移転を契機とし、九州大学を核とした
行政計画	九州大学学術研究都市構想(H13) ※産学官連携で策定		新しい学術研究都市の形成を図るもの

基本計画			
施策コード	主	8-2-2	
	再	7-6-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり		
事業群	九州大学学術研究都市構想の推進		

施策成果指標
 アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドもち(SRP地区)の従業者数(H21:13,127人→H30:確認中)
 ※うち九大学研都市分(H21:6,132人→H30:確認中)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	九州大学伊都キャンパス周辺
	対象をどのような状態にしたいのか	研究機関や商業施設の集積などまちづくりが進展し、九州大学伊都キャンパスを核とした学術研究都市が形成される。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	<ul style="list-style-type: none"> ●OPACK(九州大学学術研究都市推進機構)への補助金交付および九州大学学術研究都市構想の推進に関する連携 ●OPACKによる事業推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究に関する広報活動 ・産学官の共同研究による研究開発及びその支援 ・研究機関等の立地支援 ・産学連携交流支援
-----------------	---------------------------------------	---

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
	歳出合計	17,486
歳入	特定財源	0
	一般財源	17,486
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29 H31
	歳出合計	17,007 17,617
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	17,007 17,617

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ●OPACKへの補助金交付および九州大学学術研究都市構想の推進に関する連携 ●OPACKによる事業推進 ・学術研究に関する広報活動 ・産学官の共同研究による研究開発及びその支援 ・研究機関等の立地支援 ・産学連携交流支援	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ・地域への関心が高まり、産学官の共同研究や産学連携などが進む。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ・地域に研究機関や商業施設が立地し、まちづくりが進展する。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ・九大伊都キャンパス及びその周辺が、九州大学学術研究都市の核として、学生や研究者などが、新たな知を創造し、発信する、研究開発拠点として形成される。
	▶	▶	▶	
	活動の指標	指標の内容	実績	目標
		年度	H29年度 H30年12月時点	H31年度 最終年度
		目標	24 24	H 年度
	実績	37 17	24 -	
	達成率	154.2% 70.8%		
	目標		H 年度	
	実績			
	達成率			

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標
	年度	H29年度 H30年度	H31年度 最終年度
	目標	7,180 7,260	H34年度
	実績	確認中(経済センサス値)	7,340
	達成率		7,600
	目標		H 年度
	実績		
	達成率		

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分 重点

事業名	移転に伴う西部地域のまちづくり		
所管課	九大移転調整課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成5年度		九州大学の西区元岡・桑原地区及び糸島市への移転を契機とし、九州大学を核とした新しい学術研究都市の形成を図るもの
根拠法令	なし		
行政計画	九州大学学術研究都市構想(H13)※産学官連携で策定		

基本計画				
施策コード	主	8-2-2		施策成果指標
	再	7-6-1		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり			
事業群	九州大学学術研究都市構想の推進			アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドもち(SRP地区)の従業者数(H21:13,127人→H30:確認中) ※うち九大学研都市分(H21:6,132人→H30:確認中)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	九州大学伊都キャンパス周辺
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	・地域の学生住宅や生活利便施設、研究開発機能等が集積し、交通便利性が高まるなど、西部地域のまちづくりが進む。

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①伊都キャンパス周辺(元岡地区等)におけるまちづくり支援
	②伊都キャンパス周辺におけるインフラ整備(道路整備・河川改修)に係る調整
	③伊都キャンパスへの交通アクセス強化に係る調整等

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計	640	
歳入	特定財源	0
	一般財源	640
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H29
	H29	H31
歳出合計	1,858	1,140
歳入	特定財源	0
	一般財源	1,858
	1,140	1,140

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	①伊都キャンパス周辺(元岡地区等)におけるまちづくり支援	・地元主体のまちづくり活動により九大移転に応じた住宅供給等が行われる。	・地域の学生住宅や生活利便施設、研究開発機能が集積し、交通便利性が高まるなど、西部地域のまちづくりが進み、人口が増加する。	・九大伊都キャンパス及びその周辺が、九州大学学術研究都市の核として、必要な居住・生活サポート機能や研究開発機能、産学連携機能が集積した拠点として形成される。		
	②伊都キャンパス周辺におけるインフラ整備(道路整備・河川改修)に係る調整	・九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセスが強化され、地域の利便性が高まる。				
	③伊都キャンパスへの交通アクセス強化に係る調整等	・九大伊都キャンパス周辺のインフラ整備が促進される。				
活動の指標	指標の内容	実績		目標		
		年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	元岡土地区画整理地内のまちづくり進捗率(地区内における学生住宅などの立地)	目標	58%	63%	64%	H年度
		実績	61%	62%		-
		達成率	105.2%	98.6%		-
	目標				H年度	
	実績					
	達成率					
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
	元岡土地区画整理地内の人口	目標	1,460	1,840	1,896	H年度
		実績	1,597	1,746		-
		達成率	109.4%	94.9%		-
	目標				H年度	
	実績					
	達成率					

事務事業マネジメントシート（平成30年度実施分）

事業区分		重点
事業名	福岡空港関連自動車専用道路の検討	
所管課	自動車専用道路担当	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か ・都市高速道路とのアクセスや、空港周辺に主要渋滞箇所があるなど、定時性や速達性に課題があり、福岡市都市交通基本計画(平成26年度)へ位置付け ・滑走路増設に合わせ早期に取り組むことについて福岡市・福岡県・福岡北九州高速道路公社による合意(H27.3.17)
開始年度	平成27年度	
根拠法令	なし	
行政計画	福岡市都市交通基本計画(H26年度)	
基本計画	主 8-4-1 再 4-5-3	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
施策	成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり	
事業群	空港機能の強化、利便性向上	
施策成果指標	～32n 道路の都市計画決定	

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	市民(自動車利用)
	対象をどのような状態にしたいのか	空港アクセスにおける速達性・定時性を向上させるとともに、一般道の混雑緩和を図る。
事業目的	【目的】	<ul style="list-style-type: none"> ・市南部地域や太宰府方面からの国内線ターミナルへのアクセス強化 ・国道3号空港口交差点の混雑緩和

実施内容(手段)	平成30年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	環境影響評価準備書(案)作成を実施。 道路線形や概算建設費等を検討する予備設計(道路・橋梁・トンネル)を実施(平成29年度より継続実施)し、目的達成に寄与しつつ、事業性の高い計画となるよう、検討を行った。

事業費(千円)		
平成30年度決算額(見込額)		
歳出合計		79,210
歳入	特定財源	7,484
	一般財源	71,726
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	H29	H31
歳出合計	142,133	30,240
歳入	特定財源	23,200
	一般財源	118,933

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	・都市計画決定に向けた手続を進める。 ・福岡北九州高速道路公社が整備主体となる有料道路事業を基本とした事業化に向けて関係機関との協議を行う。(道路下水道局)	有料道路事業として都市高速道路の整備を実施。(道路下水道局)	都市高速道路の空港方面への延伸により、本市南部地域及び太宰府方面からの国内線ターミナルへのアクセスが強化される。また、国道3号空港口交差点等の空港周辺道路の混雑が緩和される。	福岡空港の機能強化を働き、国内外との交流を促進して、福岡市の競争力や魅力が高まり、九州・西日本の更なる発展に繋がる。		
	指標の内容	実績		目標		
	活動の指標	年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度
		目標				H 年度
実績						
達成率					H32年度	
年度	H29年度	H30年度	H31年度	最終年度	H 年度	
目標					H 年度	
実績						
達成率						